

佳作

カニとヤドカリのおせわ

埼玉県 川口市立戸塚南小学校二年 沼上 侑矢

よるしずまりかえった家の中で、「ガチャガチャ、ガチャガチャ。」と音が聞こえてきます。ぼくのかっこっているカニやヤドカリが、貝がらをうごかしている音です。

ぼくはこの夏、家ぞくで海へ行きました。海ではじめてイソギンチャクやヤドカリにさわり、海の生きものにきょうみをもちました。そして、カニやヤドカリをつかまえて家でかっこしてみたいと思いました。カニは足がすぐ早くつかまえづらかったですが、おとうさんときょう力してつかまえられました。ヤドカリはのんびりで、貝がらをもてば体をひっこんでくれるのでつかまえやすかったです。

カニとヤドカリは同じ水そうでかっこしています。まい日えさをあげてかんさつし、きろくしています。ある日、三びきのカニのうち、一ばん小さいカニが、食

べられてしまうところを見ました。貝がらにかくれていた大きいカニが、ハサミをふりあげて小さいカニの体をはさんだのです。ぼくはこわくてびっくりしました。「ぼくが一日えさをあげていなかったからだ。おなかがいっぱいだったのかな、かわいそうなおせわをしたな」とこっかいしてかなしくなりました。それから、えさを多めにあげてわすれないようにしています。

また、べつの日、水そうの中を見たらカニが一ぴきいなくなっていました。「また食べられたのかな」ととても心ばいしました。

「もしかしたら、にげたのかも。」

と、おとうさんが言うので、家の中をさがすと、カピカピになってしんでしまっていました。水そうのふたのあなをふさいでいたけれど、カニは力がつよいから、ポンプのホースをつたい、ふたをあけて出ていってしまったようでした。「ぼくがちゃんとなをテープでふさいでいなかったから、かわいそうだったな」と思い、今では、きちんとふたがうごかないようにしています。

かいはじめて一か月したころ、カニのこうらの下に黒いボコボコしているものがあることに気がつきました。

「小さい丸いものは何だろう？えさをためているのかな」とさいしょは考えました。そして、よくかんさつして「たまごかな」と思いました。でも、そのたまごを自分のハサミでつかんでパクパク食べはじめたので、「あれ？やっぱりえさ？食べないで」と心ばいになりました。図かんでしらべたら、自分のたまごを食べることもあり、オスとメスがいないばあい赤ちゃんにならないかもしれないということでした。ぼくは「一ぴきは赤ちゃんになってほしいな、そだててみたいな」とワクワクした気もちになりました。そして、カニのオスとメスのちがいは何なのかしらべてみたいと思いました。

生きものをかうのは大へんだけど、今までしなかったことを知ることができたので、たのしかったです。これからも、海の生きものだけでなく、ほかの生きものもかっこしてみたい、いろいろなことをたくさん知りたいです。